

共同研究の概要と経過

(1) 共同研究の概要

本書および第一三五集は、国立歴史民俗博物館（以下、歴博）が二〇〇二年度から〇四年度にかけて、館外に研究代表者を公募しておこなった、公募型共同研究「律令国家転換期の王権と都市」（研究代表者山中章・三重大学）の成果報告書である。歴博では、我が国の歴史と文化を解明するため、開館以来、歴史・民俗・考古および隣接諸科学の研究者との協議により多くの研究を推進してきた。そのなかで、公募型共同研究は、研究者コミュニティに広く研究課題と研究代表者を募集し、審査のうえで館蔵資料や施設を開放し、研究費を歴博が負担して館員と共同で三年間の研究をおこなう形式の研究である。研究課題としては「地域蘭学」に続く、第二弾として位置付けられる。

本共同研究では、律令国家転換点となった八世紀末から九世紀初めの光仁、桓武、平城、嵯峨、淳和の五王朝の時期を研究対象として、律令国家がどのように変化していったのかを、王権と都市に焦点を当てて研究した。

当該期の研究は、文献史学と考古学の協業によってこれまでにも多くの成果をあげてきている。それぞれの分野の研究者がお互いの分野に踏み込みやすくするよう基礎データを整理しておくことは、今後の研究に大いに寄与するものと考えられる。そこで、①文献史料集、②古代宮都条坊町データベースを作成することとした。

文献史料集としては、当該期の文献史料を網羅的に収集し、「弘仁格」の復元、編年的に集めた「平安初期単行法令集」を作成した。それらは『国立歴史民俗博物館研究報告』第一三五集として刊行する。

古代宮都条坊データベースは、平城京、長岡京、平安京（前期）の発掘調査情報を収集し、町単位に遺構・遺物データを示して、検索や各京の比較などが容易にできるよう整理したものである。ただ、情報量が当初の予想を大きく上回り、現在も整理作業中である。残念ながら研究報告には盛り込めなかったが、下記の展示に反映させたい。

研究終了後は、二〇〇七年秋の企画展示「長岡京遷都―桓武と激動の時代」を開催し、研究成果の公開を予定している。本研究の成果は必ずしも十分なものとは言いがたいが、今後の研究の叩き台になればと考えている。

末筆ながら、①、②に関するカード取りや編集などに参加していただいた多くの大学院生の方々にもお礼申し上げます。

(2) 共同研究の経過

(1) 研究組織 (◎は研究代表者、○は管理進行者)

網 伸也 (財) 京都市埋蔵文化財研究所
梅本 康広 (財) 向日市埋蔵文化財センター
榎村 寛之 斎宮歴史博物館
北野 博司 東北芸術工科大学芸術学部
北村 優季 青山学院大学文学部

清水 みき 文学博士

鈴木 拓也 近畿大学文学部

高橋美久二 滋賀県立大学人間文化学部

中島 信親 (財) 向日市埋蔵文化財センター

西本 昌弘 関西大学文学部

三上 喜孝 山形大学人文学部

山田 邦和 花園大学文学部

吉川 真司 京都大学大学院文学研究科

◎山中 章 国立歴史民俗博物館客員教員(三重大学人文学部)

○仁藤 敦史 国立歴史民俗博物館研究部

○村木 二郎 国立歴史民俗博物館研究部

(2) 研究経過(※はゲストスピーカー)

第一回研究会 二〇〇二年六月九日 国立歴史民俗博物館

山中 章「考古学からみた律令国家転換期研究の現状と課題」

と課題」

仁藤敦史「文献史学からみた律令国家転換期研究の現状と課題」

状と課題」

第二回研究会 二〇〇二年九月一三日 (財) 向日市埋蔵文化財センター

ター

九月一四日 花園大学考古学研究室

長岡京現地見学(説明 國下多美樹氏(財) 向日市埋蔵文化財センター)

長岡京跡左京第四七三次発掘調査現場、物集女車塚

古墳、伝淳和天皇陵、物集女城跡第八次発掘調査現場、伝高野新笠陵、向日神社、願徳寺、伝藤原乙牟

漏陵、長岡宮大極殿跡 等

網 伸也「古代都城の条坊と市」

梅本康広「長岡京「北苑」について」

清水みき「長岡京東院・春宮坊出土木簡」

山田邦和「前期平安京」の復元」

第三回研究会 二〇〇三年一月一二日 国立歴史民俗博物館

吉川真司「朝儀宝幢再論」「仏堂としての大極殿」

西本昌弘「平安京の早良親王閑室」

第四回研究会 二〇〇三年六月八日 国立歴史民俗博物館

北野博司「転換期の窯業」

村木二郎「房総地域における8・9世紀の仏教寺院」

第五回研究会 二〇〇三年一〇月一九日 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館

一〇月二〇日 遺跡見学

北村優季「長岡・平安の地理的環境―首都の立地―」

三上喜孝「律令国家転換期の辺要国(1)―辺要国と四天王法―」

四天王法」

※村木志伸(東北芸術工科大学芸術学部)「出羽南半における古代遺跡の様相―官衙関連遺跡を中心に―」

に―」

文字資料出土遺跡現地見学

川前2遺跡、梅ノ木前遺跡 等

第六回研究会 二〇〇三年一二月二二日 国立歴史民俗博物館

※堀 裕(樟蔭女子大学文学部)「桓武天皇と国忌―皇統意識と王権意識―」

山中 章「古代王権と宮都の東・北―東宮機構と禁苑の形成過程からみた王権の成長過程―」

仁藤敦史「桓武の皇統意識と氏の再編」

仁藤敦史「桓武の皇統意識と氏の再編」

第七回研究会 二〇〇四年六月二七・二八日 国立歴史民俗博物館

※妹尾達彦(中央大学文学部)「八・九世紀の転換期における都市と王権―中国大陸の事例―」

中島信親「奈良時代末から平安時代の瓦生産について」

鈴木拓也「律令国家転換期の王権と隼人」

榎村寛之「井上内親王を基軸に見る齋王と王権」

第八回研究会 二〇〇四年九月二四日 遺跡見学

九月二五日 太宰府市ふれあい館

鴻臚館跡現地見学(説明 大庭康時・折尾学氏(福岡市教育委員会))

大宰府跡現地見学(説明 山村信榮(太宰府市教育委員会))

大宰府条坊跡発掘調査現場、水城西門跡付近発掘調査現場

※石木秀啓(大野城市教育委員会)「九州地域古代須恵器

窯の変遷について」

※山村信榮(太宰府市教育委員会)「九世紀の大宰府管内」
清水みき「光仁朝の位置づけについて」

第九回研究会 二〇〇四年二月二二日 斎宮歴史博物館

※竹内英昭(斎宮歴史博物館)「斎宮跡調査の最新成果から見た光仁・桓武朝の斎宮」

山中 章「桓武朝の伊勢国―布施内親王継承多気郡所領について―」

第十回研究会 二〇〇五年一月二九・三〇日 国立歴史民俗博物館
シンポジウム「律令国家転換期の王権と都市」

都市・遷都論 司会：西本昌弘

北村優季「長岡・平安京の地理的環境―首都の立

地論―」

山田邦和「前期平安京とその周辺」

儀礼論 司会：仁藤敦史

西本昌弘「早良親王閑室・宝幢遺構・外記制・桓武天皇陵」

吉川真司「大極殿儀式と時期区分論」

王朝交替論 司会：北村優季

榎村寛之「井上内親王を基軸に見る齋王と王権」

仁藤敦史「桓武の皇統意識と氏の再編」

窯業論 司会：村木二郎

北野博司「律令国家転換期の窯業」

中島信親「奈良時代末から平安時代の瓦生産」

地方論 司会：山田邦和

村木二郎「房総における八・九世紀の仏教」

山中 章「地方の転換点」

総合討論 司会：山中 章・仁藤敦史

(山中 章・仁藤敦史)